

## withコロナ時代におけるオンライン研修の実際とその可能性

福田 英輝

### Potential of online training in the “with corona” era.

Hideki Fukuda

キーワード：オンライン研修、参加者の満足度

#### 要 旨

新型コロナウイルス感染症の拡大により、オンライン研修の需要が高まっている。著者が関わったオンライン会議と研修の実例では、時間と費用を削減できるためか、過去と比較して参加人数が大きく増加した。またオンライン会議システム（Zoom）の機能を活用することで、参加者の満足度を損なうことなく、実施が可能であった。その一方で、受講者側のwifi環境の不備は大きな課題としてあげられた。オンライン研修は、アフター・コロナ時代においても、そのメリットを考えると、継続して活用される可能性が示された。なお、本稿は深井保健科学研究所 第19回コロキウムでの発表内容に加筆したものである。

#### はじめに

新型コロナウイルス感染症の拡大は、対面で行う会議や研修のあり方に対して大きな影響を与えた。オンラインによる遠隔授業も一般化し、文部科学省が行った調査によると、地域により差はみられるものの、全国の国公私立大学及び高等専門学校<sup>1)</sup>の80%が「対面・遠隔併用」授業を検討・実施予定と報告している<sup>1)</sup>。

著者が所属する国立保健医療科学院では、2020（令和2）年4月7日「新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言」が発出されたことを受け、通常、3か月間にわたり集団研修方式で実施している「専門課程Ⅰ」、いわゆる保健所長コースは、開講式から修了式までの全過程をオンライン研修にて実施した。長期にわたるオンライン研修は、実施側である国立保健医療科学院はもちろん、受講者側にとっても初の試みであり、不安を抱えながらのスタートであった。しかしながら、オンライン研修に対する様々な工夫と、トラブルに対する細やかな対応の結果、最終的には受講者の満足度は落ちることもなく、無事修了を迎えた。懸念されていたオンライン研修であったが、修了時には対面研修とオンライン研修を併用させる対面・遠隔併用型の研修方式を望む受講生の声も聞かれた。

#### 【著者連絡先】

〒351-0197 埼玉県和光市南2-3-6

国立保健医療科学院

福田英輝

TEL：048-458-6208 FAX：048-458-6320

E-mail：fukuda.h.aa@niph.go.jp

受付日：2020年11月14日 受理日：2020年12月2日

本論文では、著者が関わった日本公衆衛生学会総会での自由集会での事例、および国立保健医療科学院の短期研修の事例を通して、withコロナ時代におけるオンライン研修の実際とその可能性について考察を行いたい。

## 対象と方法

### 1. 第79回日本公衆衛生学会総会における自由集会

第79回日本公衆衛生学会総会が2020（令和2）年10月20日から同月22日までの3日間にわたりオンライン形式で実施された。「行政に従事する歯科専門職の会」では、10月20日の19時から「公衆衛生における歯科保健を考える～行政に勤務する歯科職種の人材育成～」をZoomにて開催した。自由集会の参加受付は、セミナー開催支援サイトを利用し、事前に申請した者に対してZoomのミーティングIDとパスワードを送付した。

### 2. 歯科口腔保健推進における企画・運営・評価研修

国立保健医療科学院では、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえ、一部の短期研修において実施見合わせがあったものの、「地域保健に関する分野」の9つの研修がオンライン研修として実施された。著者が研修主任をつとめる「歯科口腔保健推進のための企画・運営・評価研修」は、20名の参加を得て、国立保健医療科学院が独自に運用する遠隔教育システムを利用した12日間の「遠隔研修」、およびZoomを利用した4日間の「オンライン研修」を実施した。「遠隔研修」では、インターネットを利用して講義資料の配布および個人演習に関する課題ファイルの提出を求めた。「オンライン研修」では、国立保健医療科学院内・外講師による講義および個人演習を実施した。

## 結果

### 1. 参加人数

日本公衆衛生学会総会における自由集会には、95名の事前応募があり、実際には89名の参加があった。参加者は、北海道から九州まで27都道府

県からの参加であった。前年度に実施した第78回日本公衆衛生学会総会時に開催した自由集会への参加者数は、37名であったため、参加人数は大きく増加した。

歯科口腔保健推進における企画・運営・評価研修については、定員20名としたが、20名を超える者の応募があった。

### 2. 実施状況、および受講評価

自由集会の内容は、行政で働く専門職に対する人材育成に関する講演会につづき、ファシリテーターによる自由形式の討論会を開催した。活発な議論が交わされ、事後のアンケートにも多くの意見をいただいた。

歯科口腔保健推進における企画・運営・評価研修については、遠隔教育システムを使って課題ファイルの提出を依頼した。課題ファイルの修正指示についても遠隔教育システムを利用した。オンライン研修では、複数の講義とあわせて、Zoomのブレイクアウトセッションを利用して5名1組による個人演習を実施した。セッションごとに、国立保健医療科学院職員をファシリテーターとして配置し、個人演習の支援を行った。また成果物（パワーポイント・ファイル）の共有は、遠隔教育システムを利用した。受講後「研修全体の評価（満足度）はいかがでしたか」というアンケートを行ったところ、オンライン研修に対する顕著な不満はきかれなかった。

## 考察

オンライン形式の自由集会、および研修を実施した結果、参加人数の増加が得られた。また、オンライン研修では、遠隔教育システムなどのファイルを共有するシステムの必要性が確認された。また、自由集会、および研修後の参加者の評価（満足度）は、概ね良好であった。

オンライン形式の自由集会や研修は、対面することなく受講を可能にするため、新型コロナウイルス感染拡大に伴って普及してきた。著者らが企画した自由集会では、例年と比較して多くの参加者を得ることができた。研修会場への移動時間や

研修にかかる費用が削減されることから、多くの参加者が得られたと考えられた。また、自由集会や研修では、画面共有によってスライドの詳細な文字の判読が可能になる、質問に対して回答数(割合)を即時に確認できる「投票機能」を用いて受講生の理解や反応を確認できる、あるいはチャットによる質問を随時受付できる等、Zoom機能をフルに活用することで、講義や研修の質が確保できた。主催者側のZoom運用に関するスキルに依存するところも大きい、一定の質を確保しながら、多くの参加者数を確保できる可能性が示された。アフター・コロナ時代においても、オンラインによる講義や研修は、継続して利用が進むものと考えられる。

演習を含むオンライン形式の研修では、課題ファイル、あるいは演習時の作成ファイルを共有する仕組みが必要であると考えられた。ファイル添付の電子メールによるやり取りも可能であるが、オンライン会議システムとあわせて、ファイ

ル共有システムと組み合わせることで、効率的・効果的な演習が可能になると考えられた。

今回、紹介した自由集会・研修に参加した受講者からは、オンライン研修に対する大きな不満はきかれなかった。受講生に対する事後アンケートから、受講のため出張の必要がなく、日常業務を継続しながら講義や研修を受けられることへのメリットをあげる意見が多くきかれた。その一方、受講者側、とくに接続場所となる職場側のインターネット環境の不備は大きな課題としてあげられていた。テレワークやオンラインによる会議がすすむなか、インターネット環境のさらなる改善を期待したい。

#### 文 献

- 1) 大学等における後期等の授業の実施方針等に関する調査結果(地域別状況)(令和2年10月2日)  
<[https://www.mext.go.jp/content/20201002-mxt\\_kouhou01-000004520\\_3.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20201002-mxt_kouhou01-000004520_3.pdf)>

---

## Potential of online training in the “with corona” era.

Hideki Fukuda

(National Institute of Public Health)

Key Words : online training, satisfaction of participants

With the spread of the new coronavirus infection, the need for online training is increasing. The author organized online-based meetings and training. As a result, the number of participants has increased significantly compared to past meetings because it saves time and money for attending them. Also, by making the best use of the Zoom application, it was possible to carry out the online training without reducing the satisfaction of the participants. On the other hand, the poor internet environment on the participants' side was a big issue for online training. Even in the after-corona era, online training has many advantages and may continue to be used. The part of this article was presented in the 19<sup>th</sup> colloquium at the Fukui Institute of Health Science.

Health Science and Health Care 20 (2) : 65–67, 2020